

ゴミ処理・リサイクル事業



ジャパンエンバイラメンタルソリューションズ
Japan Environmental Solutions / JES

世界的に環境問題はクローズアップされている！！

現在、世界のほとんどの国で環境問題解決のため色々な試みに積極的に取り組もうとしています。
代表的には、下記のような環境問題が世界で注目され打開策を模索している現状です。

- ①大気汚染、②地球温暖化、③人口爆発、④天然資源の枯渇、⑤気候変動、⑥絶滅危惧種、⑦森林破壊、⑧都市化
- ⑨ゴミ処理問題（燃やせばよいのか??）

（ご参考） 焼却炉の数(環境省H21年度,OECD2008)

日本1243 アメリカ351 フランス188 ドイツ154 スウェーデン28 イギリス 55

日本のゴミ焼却場数はダントツで世界一です。

ゴミ焼却量は、ヨーロッパの環境先進国の10倍以上で、ダイオキシン排出量も世界一です。

「燃やすとダイオキシン」、「埋めると土壤汚染」といった認識のもとヨーロッパなどの環境先進国では、厳しい規制があります。
ごみは燃やすことで量は減りますが、根本的な解決にはなりません。

元アメリカ副大統領の**アル・ゴア氏**は環境問題について『不都合な真実』
（地球温暖化を喧伝するスライド講演に、彼の生い立ちを辿るフィルムを
交える構成のドキュメンタリー映画）において地球温暖化が大きな
問題であると訴え、講演や「不都合な真実」での環境啓蒙活動が評価され、
IPCCと共にノーベル平和賞を受賞しています。



現在、環境問題に対する対策が世界的に注目されています！！

国際条約により廃棄物処理管理が必須！！

各国において環境問題の解決が注目される中で、当社は、**ゴミ処理問題の解決**に着目し、まず**北マリアナ諸島連邦（サイパン島）**において同問題解決のため当社が実施するプログラムを導入し政府と協力してゴミ処理問題に取り組みます。

北マリアナ諸島連邦は、太平洋諸国における廃棄物管理を統括する国際組織スプレップ「**SPREP**」（事務局をサモアに置き、日本をはじめとしたアメリカ、イギリス、フランス、オーストラリア、ニュージーランド、EU/ European Union（欧州連合）などが指導し、太平洋における廃棄物管理の方向性を策定している国際組織）に加盟しております。同組織には太平洋における14の独立国と北マリアナ諸島（サイパン）、パラオ共和国、グアムなどを含む7つのテリトリー計21ヶ国が加盟しており、太平洋に存在する国々が目指すべき廃棄物処理の方向性を策定している組織です。

その指導国としてアメリカ、イギリス、フランス、オーストラリア、ニュージーランドに加え、UN/ United Nations（国際連合）と日本のJAICA（国際協力機構）やJ-PRISM（大洋州地域廃棄物管理改善支援プロジェクト）がオブザーバーとして参加しています。これらの指導国は、太平洋諸国に自治領を持つ国々も含まれてます。これらの国々は**各国際環境保護の条約に調印**しており、特にストックホルム条約ポプス（POPs/ Persistent Organic Pollutants）の**指針は厳格に履行する義務**があります。

SPREP, POPs



UN（国際連合）,EU（欧州連合）



JAICA, J-PRISM

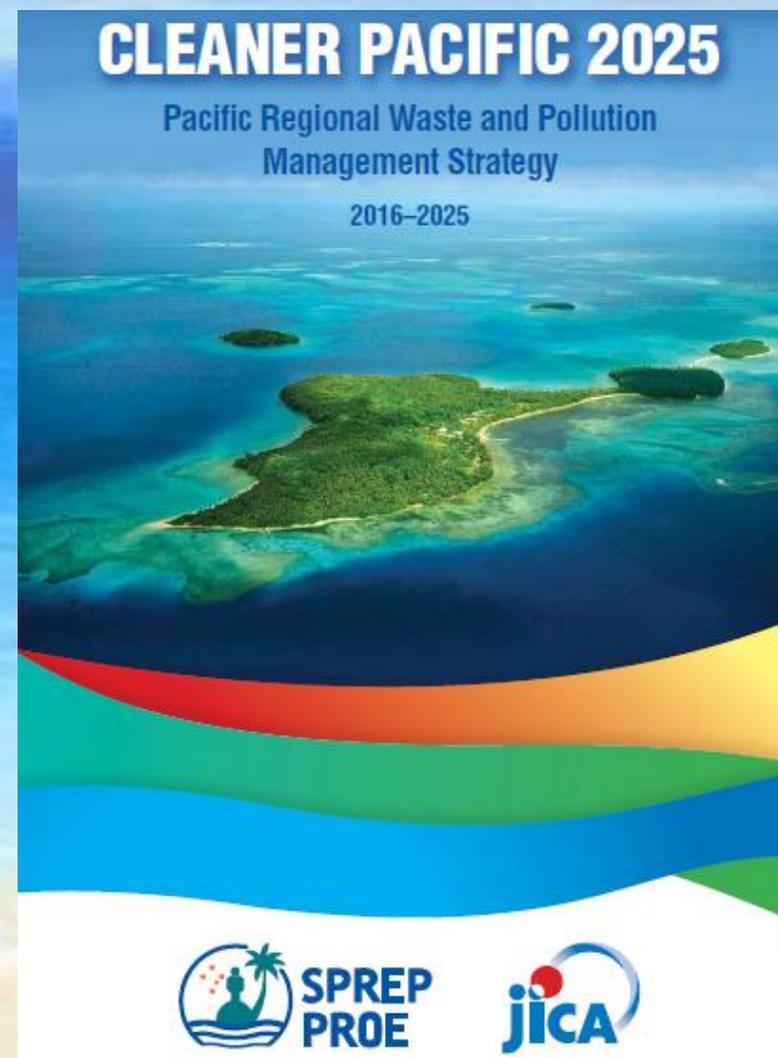


SPREPの 2016～2025年迄の太平洋諸国における廃棄物管理の指針

SPREPは2016年～2025年迄の廃棄物管理の指導原則と行動指標を取り決めてます。先ずは「ゴミ質、量調査の重要性」の確認をすることを挙げてます。廃棄物処理管理を履行するため具体的に下記を実施いたします。

具体的な行動

1. 飲料容器リサイクルデポジットシステム
2. コンポスト（有機肥料）
3. 再生燃料（油化）
4. 電気製品ゴミのリサイクル
5. 収集運搬の拡充



北マリアナ諸島サイパン島

北マリアナ諸島

Mariana Archipelago

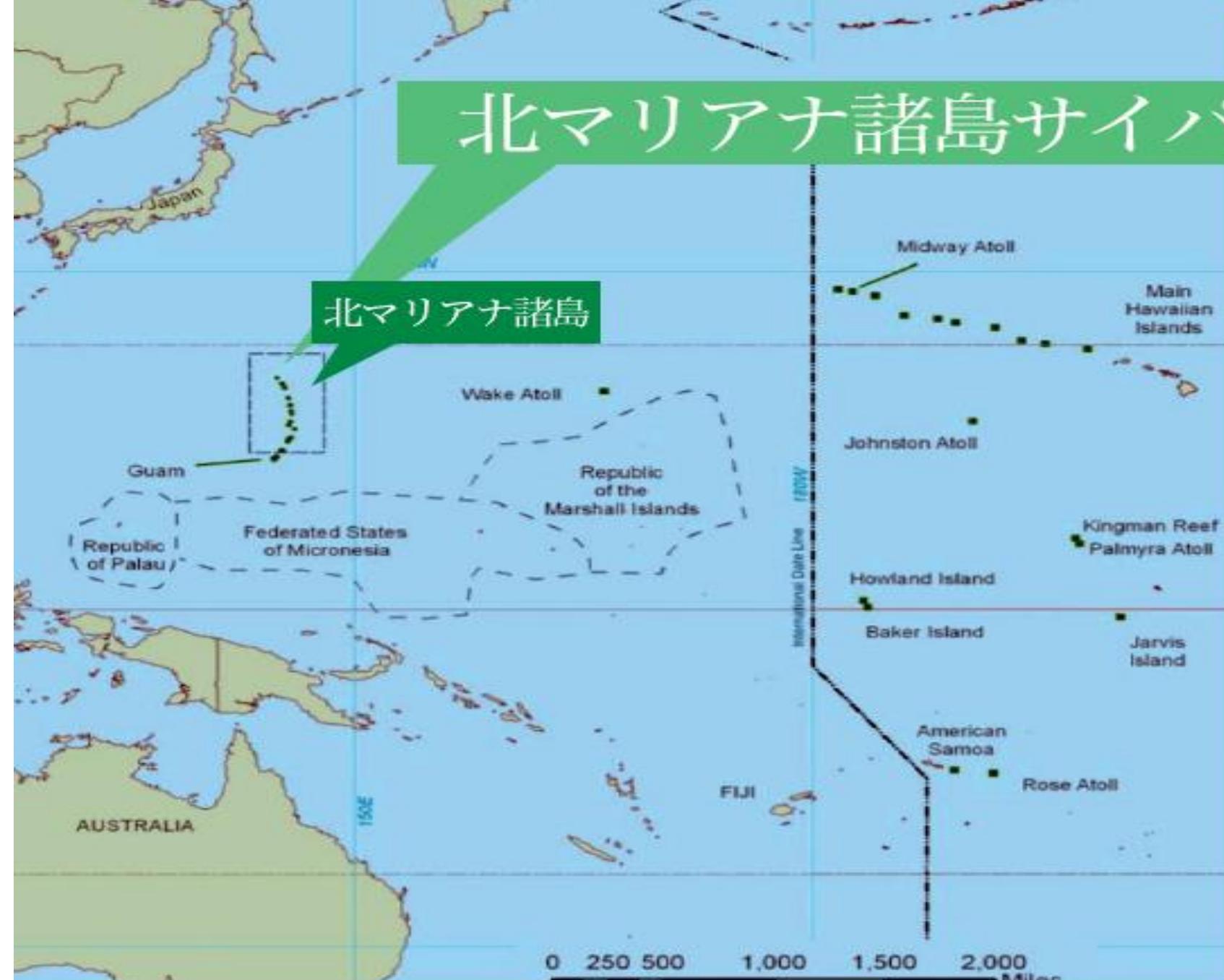
サイパン島

- Uracas
- Maug
- Asuncion
- Agrihan
- ☞ Pagan
- Alamagan
- Guguan
- Sarigan
- ☞ Anatahan
- Farallon de Medinilla

Saipan
Tinian
Aguiguan

Rota

Guam



北マリアナ諸島連邦サイパン島について

北マリアナ諸島連邦自治区（USA自治領）

Commonwealth of the Northern Mariana Islands (CNMI)は、サイパン島、ロタ島、テニアン島など14の島からなる**アメリカ合衆国の自治領**です。その中の**サイパン島は首都であり政治と経済の中心地**です。

北マリアナ諸島全人口は約55,000人

（サイパン約50,000人、ロタ2500人、テニアン3000人）

ここ数年居住者は毎年2%、ツーリストは10%以上増えてます。

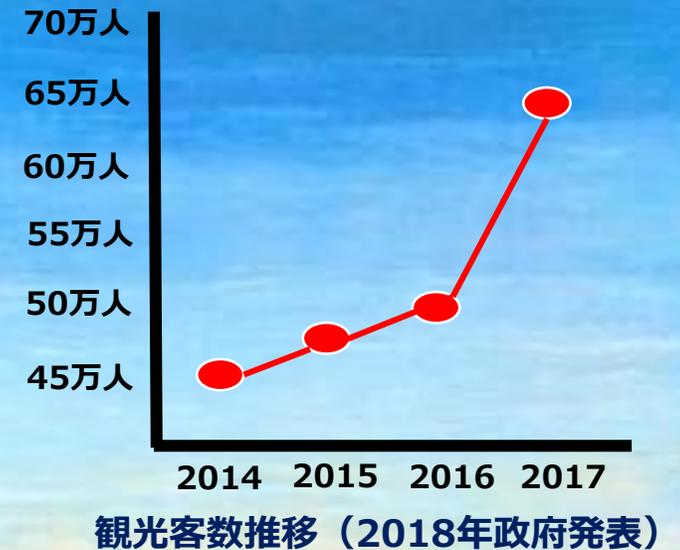
また日本の統治時代もあり大変親日の島です。

以前より人気の高いマリリゾートエリアであり海の透明度が高く美しい海は熱帯魚の種類も豊富で、世界中のダイバーの憧れの地となっています。

ビーチ以外にもゴルフやジャングルトレッキング、スカイダイビングなどのアクティビティや昨年オープンした西太平洋地区初のカジノも大変人気で、観光客も年々増加し現在年間約65万人が訪れています。

ホテルやコンドミニアムの開発も急速にすすんでおり100万の大台に乗る日も近いと言われてます。

かつては日本人の観光客がメインでしたが現在は欧州、東南アジア、韓国、中国などからの観光客が増えており、常夏のレジャースポットとして大変人気となっています。



サイパン島でのゴミ処理問題について

自然やきれいな海で人気の高いレジャースポットなのですが、現地においては、ゴミ処理問題に関して大きな社会問題となっています。観光で成り立っている島のため観光客が増えることは喜ばしいことなのですが、それに伴いたくさんのゴミが排出されており、**人口や観光客の増加に伴いゴミの量も年々増えています。**現在サイパン島および近隣の島ではゴミ処理について一切の分別回収はしていません。回収された廃棄物は、大まかに有機物と非有機物に分けられ、米国環境保護局(EPA)の指導により埋め立て処理される事になってはいますが、実際にはかなりのゴミが分別されずに埋め立てられています。昨年のカジノホテル等の建築やそれに伴う建築ラッシュや来島者数急増の影響もありゴミ処分場が、近いうちに満杯になる危機がおとずれています。

更に大きな問題は、サイパン島はサンゴ礁からできている島のため、**埋めて処理することは、極めて大きな問題**です。埋めて処理されたゴミにより出てくる有害物質が海に流出し海水汚染を引き起こすと危惧されています。観光をメインのビジネスとしているこの島にとって海の汚染は致命的な大ダメージとなるため、以前よりこの問題の解決は**最優先重要解決課題**として取り上げられています。

ゴミ処分場問題



サイパン島のメインエリア
“ガラパン”付近にある
ゴミで出来た丘公園です。
現在島民は誰も近寄りません



サイパン島の北に
ゴミを埋めるために掘った
二つ目のごみ埋め立て地
早くも一杯になる危機

北マリアナ政府の苦悩

何か良い**解決方法**はないだろうか？

ゴミ処理の所轄官庁である、北マリアナ国諸島連邦国土管理省（DPW）及び環境省（DECQ）は、埋立用地増設の為に2018年度の新年度予算に**550万ドル（約6億円）**を計上しています。しかしながら埋立用地増設は原始的で一時的な措置でしかなく用地確保も限界に達しています。

又、米国環境保護局(EPA)から厳しい指導を受け、深刻化する土壤汚染、環境汚染対策に手を打てずにより、北マリアナ政府においては、それら汚染対策及び最新の**ゴミ処理のためのシステム、プログラム導入が最重要課題**のひとつです。

このような背景の中、北マリアナ諸島連邦政府は、土壤汚染対策や環境汚染対策への打開策（Solution）として新しいプログラムによるゴミ処理事業の民営化について、積極的に取り組む方向性を打ち出した経緯があります。

ゴミ処理問題（参考資料（一部）・ネットニュースより）

かなり以前より大きな社会問題として政府は対策を考えてました。下記はニュースとして報じれたゴミ処理問題関連の記事の一部です。

1999年6月22日（サイパントリビューン紙）：島民はごみ問題について政府にプレッシャーをかけなければならない。
<https://www.saipantribune.com/index.php/94cb084f-1dfb-11e4-aedf-250bc8c9958e/>

2006年11月15日（米国環境保護局）：サイパンのプエルトリコの処分場を閉鎖して汚染対策を計画
https://archive.epa.gov/epapages/newsroom_archive/newsreleases/7d1b424e5eb6b5c185257227007355ee.html

2015年6月2日（サイパントリビューン紙）：サイパンのプエルトリコの処分場の汚染対策工事開始
<https://www.saipantribune.com/index.php/conversion-of-puerto-rico-dump-into-a-park-takes-off/>

2016年1月28日（サイパントリビューン紙）：CNMI環境保護局より2か所のビーチが遊泳禁止（レッドフラッグ）と発表
<https://www.saipantribune.com/index.php/deq-red-flags-2-sites-on-saipan/>

2016年2月5日（サイパントリビューン紙）：固形廃棄物問題はCNMIの美化における最大の懸念
<https://www.saipantribune.com/index.php/solid-waste-disposal-is-main-concern-of-beautify-cnmi/>

2016年5月24日（サイパントリビューン紙）：CNMIを美しく！固形廃棄物問題に着手せねばならない
<https://www.saipantribune.com/index.php/228399/>

2017年5月11日（ガムデイリーポスト紙）：550万ドルで新廃棄物処分場の建設を模索
https://www.postguam.com/news/cnmi/m-sought-to-address-impending-trash-disaster/article_0a6fec2e-3548-11e7-8f2c-c70367c0ed56.html

2018年2月8日（CNMI環境保護局）：CNMI遊泳禁止エリア（レッドフラッグ）について
<http://deq.gov.mp/sec.asp?secID=52>

2018年9月7日（サイパントリビューン紙）：マッピの廃棄物処分場は満杯
<https://www.saipantribune.com/index.php/marpi-dump-cell-at-max/>



2015年6月2日（サイパントリビューン紙より）

サイパンリサイクルセンター

-美しい環境をサイパンから-

全てを美しい環境へ戻す作業を行います！



リサイクルセンター (イメージ)

全てのリサイクル対象物がこのリサイクルセンターに集まり選別施設により右図の3カテゴリーに選別され作業が行われる。



選別施設 (イメージ)



肥料の対象となるものは…



有機肥料製造施設



燃料の対象となるものは…



プラスチック燃料製造施設



砂の対象となるものは…



ガラスリサイクル施設

会社概要

会社名 : Japan Environmental Solutions, LLC / JES
(ジャパン・エンバイラメンタル・ソリューションズ LLC)

所在地 : P.O. BOX. 505144, CK, SAIPAN, MP 96950, CNMI, USA

設立 : 2019年2月

CEO : 岡本 幸司 / Koji Okamoto

COO : 野澤 教成 / Kyosei Nozawa

★企業ビジョン★

当社は、日本人ならではの素養と細かな行き届いた配慮の精神を常にもちながら、人に関わる全ての環境や国や地球の環境を改善していくための解決策や打開策を模索し探求し続け、皆様と成功を共有しながら成長していく企業になるべく挑戦してまいります。